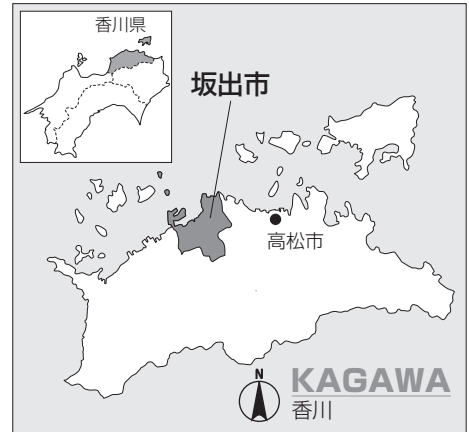


坂出市

香川県坂出市における国際交流への取り組み



香川県坂出市総務部秘書広報課

坂出市の国際交流

坂出市は、香川県のほぼ中央部に位置し、多島美を誇る瀬戸内海と歴史的遺産を有する山々に囲まれた人口約5万3,000人の市です。大都市圏に属さない地方都市によく見られるように、グローバル社会の進展を身近で感じる機会は少ないですが、国際化の波はそう遠くない将来、坂出市にまで波及してくると予測し、現在取り組んでいる国際交流に関する事業とそこから見えてくる今後の課題を紹介します。

なお、坂出市の国際交流に関する事業は、主に坂出市国際交流協会が担っています。当協会は個人会員約500人、団体会員約120団体のサポートなどにより運営され、事務局を秘書広報課で行っています。ここでは主な3事業について紹介します。

都市間交流（姉妹都市交流）

坂出市は米国カリフォルニア州サウスリート市（以下、サ市）と1988年に姉妹都市の提携を行いました。これは、その前年のゴールデンゲートブリッジ（金門橋）と瀬戸大橋の姉妹橋提携を契機として、両橋のたもとにある坂出市とサ市が姉妹都市となったものです。それ以後、27年間、毎夏、短期留学生の派遣と受け入れを交互に行っています。坂出市から14回211人の留学生を派遣し、サ市から13回119人を受け入れています。この交流は、両市の高校生などがホームステイを通じ互いの文化を理解し、その後国際人として活躍する契機となることは

もちろん、幅広い世代の両市民を巻き込んだ効果が見られます。例えば、坂出市では留学生受け入れ期間中にできるだけ多くの



留学生は夏祭りの総おどり参加を通して市民と交流します

機会を設け、バスツアーを企画したり、交流バーベキューを楽しんだりしています。日常生活の中で、外国出身の方と交流できる機会が少ない坂出市の市民にとっては貴重な経験です。また、サ市でも、ボランティア組織が幅広く確立され、この姉妹都市交流のお蔭でコミュニティーのつながりが強固になっていると聞いています。

一昨年は、両市にて姉妹都市提携25周年を盛大に祝い、素晴らしい効果をあげているこの姉妹都市交流を継続していくことはもちろん、さらなる発展の可能性も模索していきたいと誓い合いました。この姉妹都市交流から派生する新たな事業も、現在、両市で話し合っています。



姉妹都市提携25周年記念植樹の桜の前で両市長を囲んでの集合写真

市民向けイベントおよび講座

外国出身の講師との直接的な交流による文化体験の機会を数多く提供することで、市民の国際理解を促進し、地域の国際化に寄与できるよう3種のイベントおよび講座を行っています。

1つ目は異文化理解イベントとして、春のイースター、秋のハロウィーンについてそれらの起源を学び、特有の遊びを楽



トリックオアトリートの一場面、お花屋さんではお花もいただきました

しむ機会を創出しています。後者、ハロウィーンでの一番人気はトリックオアトリート体験です。商店街の協力を得て、子どもたちがお菓子をもらうために商店街を巡ります。この日は、かわいらしい仮装と多くの笑顔で商店街が賑わう日となります。

2つ目は国際理解講座として、各国の文化をいろいろな手法で学ぶ講座を年に4～5回、設けています。例えば、「英国流アフタヌーンティークラス」で英国出身講師からアフタヌーンティー文化について学び、イギリスの紅茶とスコーンを楽しみました。「クリスマスリース作り」では、ドイツ出身講師からドイツのクリスマスについての話を聞き、クリスマスリースを作りました。

3つ目は子ども国際理解講座です。対象を子どもに特化したクラスで、春休みや夏休みなどにシリーズでいろいろな国出身



米国出身講師とネイティブアメリカンについて学び、ドリームキャッチャーを作りました

の講師と触れ合える機会を提供しています。例えば、イタリア出身の芸術家の講師からイタリアについて学んだ後、絵画クラスとして絵を描きました。また、ロシア出身の講師からロシア文化について学び、マトリョーシカを作るクラスも開催しました。また、昨夏は出身国の異なる6人の講師によるクラ

スを開催した関係で、各講師にアンケートを行い「6か国の小学生の生活比較表」をまとめ、参加した子どもたちに配付しました。子どもたちは、各国の小学校での給食や掃除の有無、放課後の過ごし方、小学生の将来の夢など、身近な違いについて興味をもって読んでいました。

在住外国人支援

坂出市には470人前後の外国籍住民が暮らしています。ここ数年、その数は微増し、かつ出身国や在留資格も多様化しています。そこで、在住外国人支援として、2種の支援を行っています。

1つ目は、日本語以外を母国語とする外国籍住民などが日常生活に必要なコミュニケーションを日本語で行えるよう日本語教室「にほんご@坂出」を毎週日曜日に開催しています。この日本語教室の講師は全員ボランティアで、学習者の希望に応じて日本語学習支援を行っています。

2つ目は、外国籍住民が坂出市で安心して日常生活を営むための環境整備の一つとして「生活ガイドブック」を英語、中国語、日本語（ルビ付）の3タイプで発行し、配布しています。

今後の課題

繰り返し述べてきましたが、坂出市では、外国出身の方と出会い、交流できる機会が身近にはありません。一方で、外国籍住民数や外国人観光客数はわずかながら増加傾向にあります。その乖離を埋めるべく、市民にはより一層の国際理解への啓発、在住外国人には支援を通して地域社会への参加促進、2つのベクトルによる施策が重要と捉えています。そのうち、前者においては、教育関係部局とも連携して、これから国際社会で活躍の期待される子どもたちに特化して国際理解を推進していく必要性を感じています。

そして、大人から子どもまで、市民が国籍の別なく、それぞれの文化や慣習の違いを認め合い、坂出市で生活をする仲間としてともに行動できる社会を目指して、これからも活発に事業を展開していきたいと考えています。